

問▶文化財課(☎77)4477)



堀内古墳

のさまざまな維持方法を考える手がかりとなりました。また、これまで想定していた本證寺境内地の推定案と外堀の位置が、ほぼ一致したことも重要な成果の一つでした。

■堀内古墳(堀内町)

堀内古墳は、三河を代表する桜井古墳群の古墳の一つです。

名鉄西尾線堀内公園駅周辺の市道拡幅計画に伴い、堀内古墳の範囲確認調査区を6カ所(A～F区)に設定しました(図2)。調査の結果、墳丘の裾を調査したC・E区で、古墳築造の様子がわかる土層堆積状況を確認しました。これは、古墳時代の凸凹の

ある地表面に、互い違いに赤褐色土や黒褐色土を積んで整地し、そこに黄褐色土を盛ったというものです。そのほかにも、近接する堀内貝塚と同じ縄文時代晩期の土器が多量に堆積した溝(B・F区)や、古代から中世の集落遺跡に関連すると考えられる溝(D区)、さらには、近世から近代の陶磁器を多数出土した土坑(A・B・F区)など、縄文時代から現代へとつながる遺



古墳の盛土

古墳の整地面

縄文～古墳時代の地表面

堀内古墳の墳丘斜面(C区北東側から)

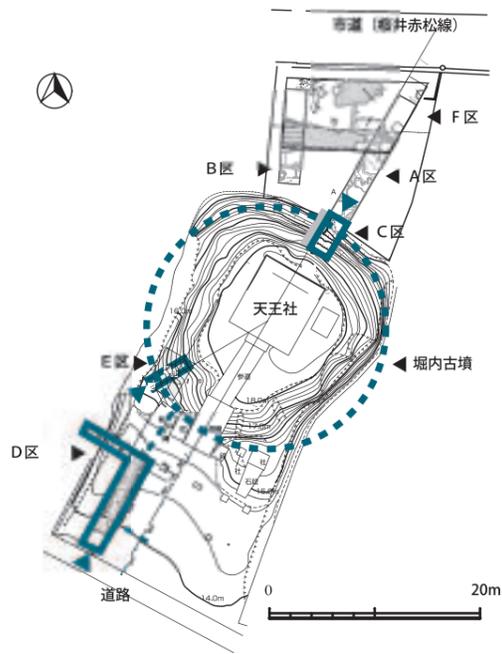


図2：堀内古墳調査位置図

跡の動向がわかりました。今回は部分的な調査であり、古墳の築かれた時期は特定できませんが、今後の継続的な調査によって詳細を明らかにしていきたいと考えています。

■遺跡の調査にご協力を！

遺跡は、わたしたちの祖先が残したかけがえのない歴史です。一度壊されると、二度と元には戻りません。市では、開発でやむを得ず破壊される遺跡を、事前に発掘調査しています。個人住宅の新築・建て替え時には、無料で調査に伺いますので、相談してください。

なお、今回紹介したものを始め、発掘調査で出土した遺物は、埋蔵文化財センターで保管・展示しています。展示品を紹介するパンフレットも、無料で配布していますので、ぜひご覧ください。

●展示日時 (火)午前9時～午後5時  
※例の翌日、年末年始を除く。



埋蔵文化財センター内展示スペース

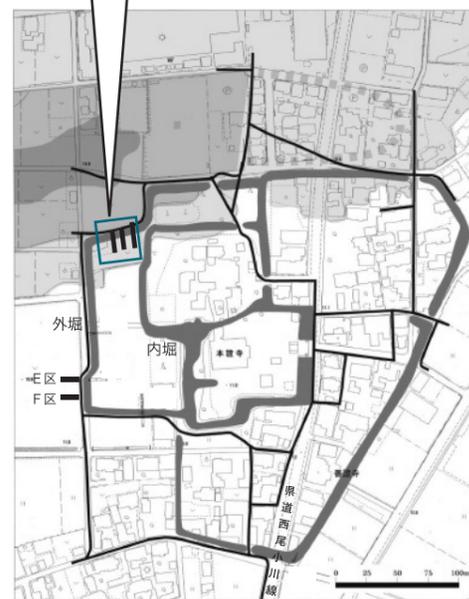
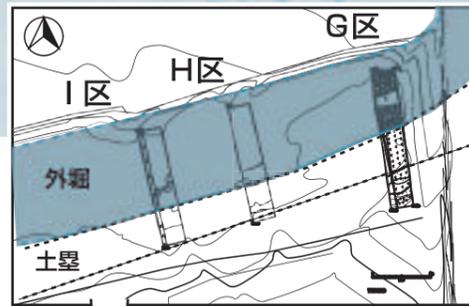


図1：境内地推定案と調査位置図



本證寺境内地

■本證寺境内地(野寺町)

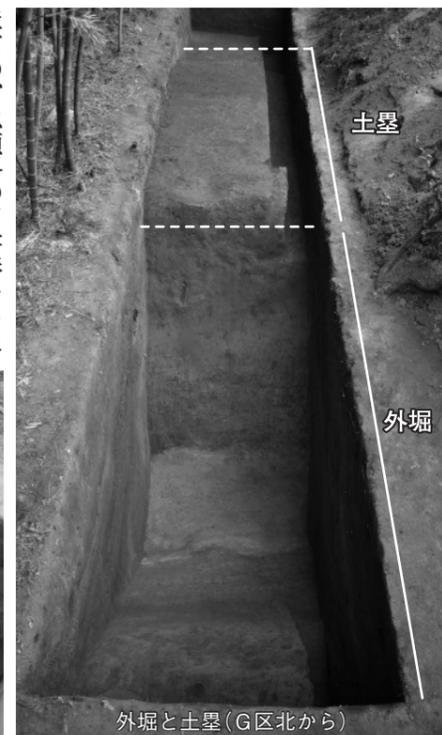
本證寺は、三河三か寺と呼ばれる三河真宗の中心的な寺院です。県指定文化財である本堂などの建物がある境内地の周りに

は、土塁や二重の堀が巡っています。戦国時代の城のようにみえることから、城郭伽藍または城郭寺院と呼ばれ、県指定の史跡にもなっています。個人住宅建設に伴う今回の調査は、江戸時代に残された本證寺の絵図に認められる、外堀の有無などを確認することが目的でした。調査区は図1のとおり5カ所(E～I区)に設定し、調査の結果、G～I区で、外堀を確認しました。G区では、幅4.5m、深さ3.2m

ほどの、急傾斜のV字形をした堀(外堀)と、境内地の内側に築かれた、土塁の基部らしき遺構の一部を発見しました。これまでの外堀の調査から、戦国時代(16世紀)に造られた深く狭い堀を広くするため、江戸時代後期(19世紀)に再整備したことがわかっていました。しかし、今回発見した堀は、江戸時代に手が加えられたものではなく、戦国時代に築かれた原形をそのまま残していたものと考えられます。この発見は、戦国時代から江戸時代までの、本證寺における堀



外堀(G区北東から)



外堀と土塁(G区北から)

発掘調査最前線

安城市には、250カ所を超える遺跡が確認されています。昨年度、埋蔵文化財センターで実施した発掘・調査は14件。今回は、そのうちの2件を紹介します。